

---

# 回想

テスカ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

回想

### 【Nコード】

N25770

### 【作者名】

テスカ

### 【あらすじ】

とある小学生の悲しい体験

(前書き)

特に意味はありません

きつと今日という日を覚えている人間なんていないだろう。僕にとつての特別は、他人にとつての普通なんだ。

今日、僕の好きな人が死んだ。その人は僕の親であり、兄であり、親友だった。僕の両親は7歳の時に二人とも死んでしまった。それ以来僕は、親戚の家をたらい回しにされていた。そう、ここまではよくある話。

ある日僕は親戚のお兄さんに、全てを打ち明けた。辛いことや悲しいことの全てを。お兄さんは「頑張ったな。」といって、僕を抱きしめてくれた。その日から僕はお兄さんの家で過ごすことになった。もともと良くは思われてなかったから、簡単に引き取れたらしい。その時のお兄さんはまだ二十歳で、よく引き取ってくれたと思う。僕の目を見て、それしかないと思ったみたい。生活は苦しかったけど、毎日が本当に楽しかった。本当に……。だから僕は自分が特別不幸だと思つた事はなかった。

そして今日。あれから5年。僕の小学校の卒業式が一週間後に迫つた、冷たい雨の日に、お兄さんは交通事故にあつた。対向車の居眠り運転が原因らしい。お兄さんの原付は、原形を留めないほど壊れていた。

病院では医師やら看護師やらが、慌ただしく走り回っている。何が起こっているんだろう。どうせお兄さんは寝ているだけだ。そうに決まっている。そのうち先生が時計の時刻を読み上げて、お兄さんの顔には白い布が被せられた。そんなことしたら苦しいじゃないか。早くとらないと。考えだけが目の前を通り過ぎていく。周りの動きがやけに速く感じる。そのうちお兄さんはどこかの部屋に運ばれていった。病室にいるのは、僕と、僕を必死に慰めようとしている看護師の二人になった。「大丈夫。」「元気を出して。」「そんな言葉はいらない。お兄さんの存在に比べて、あまりにも意味のない

言葉。

部屋には、事故に遭う前にお兄さんが買っていたらしいスーツが置いてあった。卒業式に出るつもりだったんだろう。新品のはずのスーツには、確かにお兄さんの温もりが残っている気がした。僕はそのスーツを胸に抱いて、今日初めての涙を流した。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2577o/>

---

回想

2010年10月11日19時13分発行